



野村総合研究所

## 【企業情報】

本社所在地 東京都千代田区  
 事業内容 コンサルティング、金融IT・  
 産業ITソリューション、  
 IT基盤サービス  
 従業員数 連結13,278名  
 (2020年3月31日現在)

図1：地域交流センター「真鍋家」のSOオフィス



図2：小学校でのIT機器を使った出前授業



## 【背景・目的】

同社は、2017年9月に、徳島県三好市へ出向していた社員を招き、データセンターサービス本部で講演会を開催。その際、三好市が推進している地域でのサテライトオフィス（以下、SO）の取り組みに関心が集まった。同本部の社員は、ミスを犯せないプレッシャーのかかる業務に従事しているため、SOが集中力・モチベーションの維持と生産性向上に寄与するのではないかと考え、同年11月に実際に現地を視察。テレワークで業務可能な社員であれば運用できると判断し、翌年2月から三好市でのSOの活動をスタートさせた。SO利用の目的は「働き方改革の可能性を探る」、「SOならではの業務スタイルを確立する」、「新たなイノベーションの発想を促す」、「地元との関わり方・共存共栄の在り方を考える」こととした。

## 【サテライトオフィス活動の運用】

4～8名の社員が1回あたり約1カ月滞在し、基本的に横浜・大阪のオフィスで行っている定常業務を現地で行う。参加社員は毎回立候補とし、お互いが日ごろ交流の無いメンバーを選出している。上述の目的のもと、地域貢献活動には積極的に参加する。活動例として、これまで市役所との勉強会や学校への出前授業、地元の方々との意見交換会等を行ってきた。なお、SO活動は制度上、出張扱いとなっており、通常の社員と同様の勤務形態となる。これまで、約70名の社員がこの活動を利用した。

## 【活動の環境】

三好市は県内に光回線が配備されており、良好なインターネット環境が整っている。また、JR阿波池田駅を中心に半径500m圏内に様々な施設が集中しているため、生活に困ることがない。社員は交流施設をレンタルオフィスとして利用し、閑静な住宅街の中で集中して業務に励むことができる。宿泊は人数や時期により近隣のホテルや簡易宿泊施設を利用。キッチン付きの施設を借りられた場合は共同生活で自炊を行うため、チームワークビルディングに最適である。

## 【価値と課題】

都市部ほど便利ではないが、仕事を行うために必要なものが揃っている「ほどよい利便性」と、非日常な風景が広がる「ほどよい自然」により、気持ちの切り替えに最適な環境となっている。参加者からは、「業務を妨げる要因が少ないため、集中して業務に励むことができ、業務時間も短縮できた」といった声や、「働き方そのものを見直すことができた」という意見もみられた。また、普段と異なる生活環境に身を置き、現地で地域交流を行うことで、新たな気づきや学びが生まれる点が最大の価値である。他方、課題としては本社のオフィスの中で何気ない会話等から入ってくる情報が不足しているため、本社との情報共有の方法を検討しなければならないと感じている。今後の展望として、地方でのSOの魅力である、地域との価値共創の機会を増やす取り組みや、常設の宿泊施設を置く等といった検討を考えている。

※新型コロナウイルス感染拡大を受け、当活動は休止中（再開時期未定）

取材月 2020年7月